

資料 -1

大磯駅周辺地区安全安心・にぎわい創出計画（案）

第3回 検討会議

平成29年12月25日

1. 事業コンセプト
 - 1-1. 大磯駅前広場計画のコンセプト（案）
2. 駅前広場計画
 - 2-1. 計画案の3案比較
 - 2-2. 計画図
 - 2-3. ロータリーの整備計画
3. 景観・デザイン計画
 - 3-1. 現況の景観整理
 - 3-2. 景観ルール方針
 - 3-3. 各種施設イメージ提案
 - 3-4. 完成イメージパース
4. 大磯駅周辺地区案内誘導計画（案）

1. 事業コンセプト

1-1. 大磯駅前広場計画コンセプト（案）

大磯駅前広場計画コンセプト（案）を提案する。

歩き楽しみ、憩い・にぎわいあふれる大磯の玄関口

安全・安心

①歩行者に優しい安全安心な駅前広場

- ・安心に歩いてまわれる歩道空間の確保。
- ・安全で快適に通行できる車両空間（自転車、バス、タクシー、一般車）の整理。

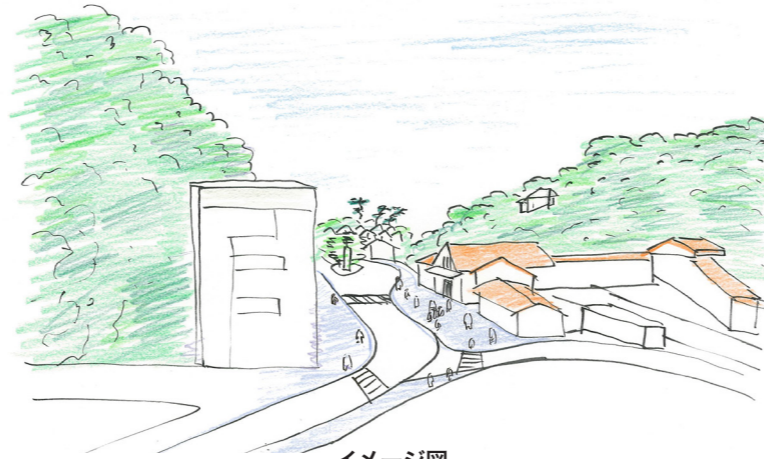


イメージ図

大磯らしさ

②大磯らしい風格ある町の玄関口

- ・大磯らしい自然、文化歴史の継承
- ・駅前広場の施設（柵、照明灯、シェルター等）は、景観に配慮し大磯をイメージするデザインをもたせる。



イメージ図

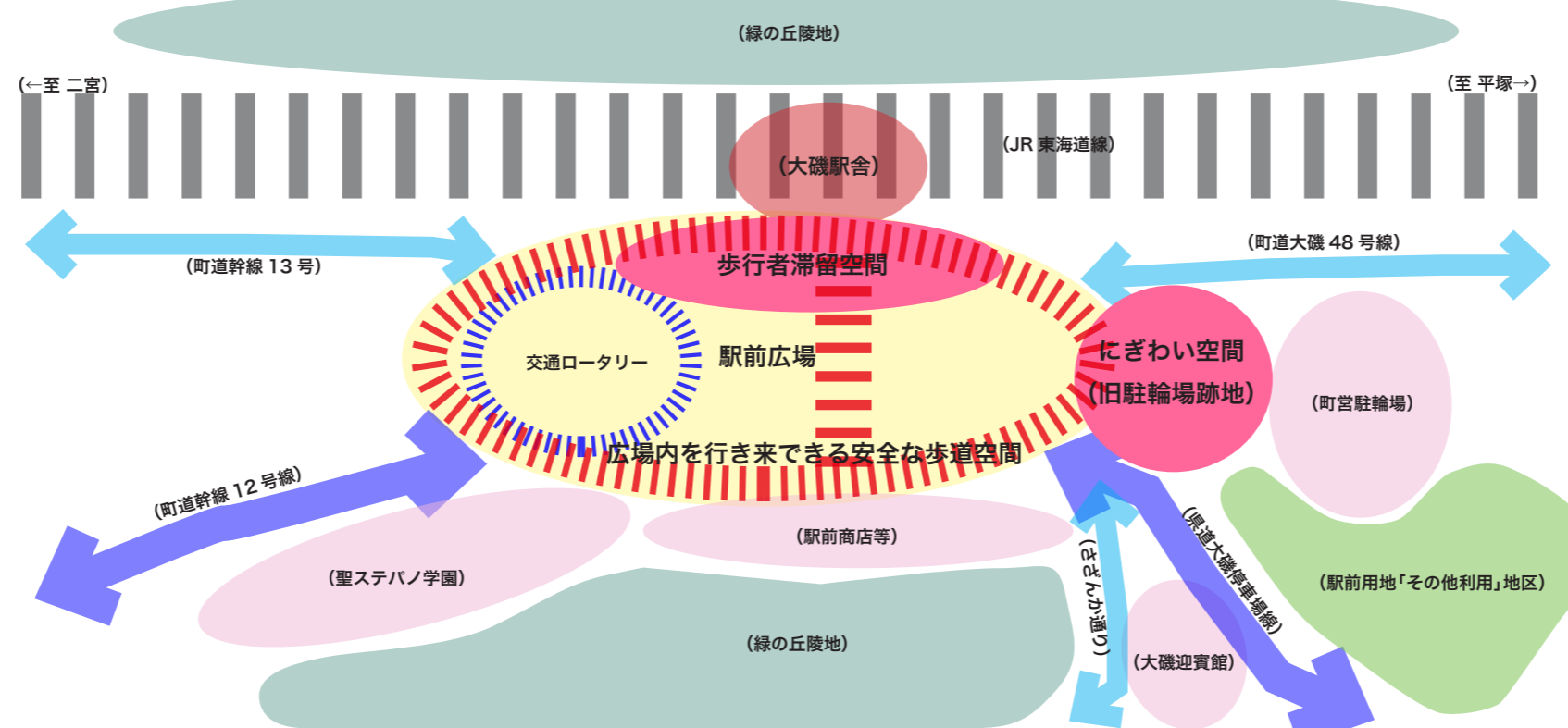
憩いとにぎわい

③憩いと交流と賑わいあふれる駅前広場

- ・駅前広場に歩行者の滞留空間を確保し、待ち合わせや休憩の場を提供する。
- ・東側旧駐輪場跡地を利活用し交流の場を整備する。



イメージ図



大磯駅前広場ゾーニングイメージ図

2. 駅前広場計画

2-1. 計画案の3案比較

整備方針の確認

- ① 駅舎前の滞留空間の確保 駅舎前の滞留空間が不足し、団体の待ち合わせ等で駅利用者の通行を妨げるため、歩道幅員を拡幅する。
- ② 駅前広場の東西の歩道整備 駅前広場の東西は歩道が未整備のため、歩行者が安全に移動できるよう整備する。
- ③ 交通動線の整理 自転車・自動車の通行位置が不明瞭、一般車の無秩序な駐停車等の課題があるため、施設配置、車両動線を見直す。
- ④ ロータリーの縮小 駅舎正面の歩道確保及びタクシープール設置場所としての限られた空間の有効利用のため、ロータリー縮小を検討する。

第2回検討会議を踏まえ、3案比較から計画案の方向性を決定した。

本比較案は、関係者との協議中の未定稿です。
今後、変更される可能性がありますので、
取り扱いには注意してください。

	A案 公共交通既存配置踏襲案	B案 東側転回場設置案	C案 中央広場案 (通過交通不可)
イメージ			
考え方	・既存の施設配置を踏襲し、広場整備による公共交通への影響が少ない案。	・東側に転回場を設け、タクシー及び一般車が東西どちらでも転回でき、拠点としての利便性の向上を目指す案。	・道路を分断し駅前広場中央に広場を設け、広場形状を大きく見直す案。
安全・安心	・車道内に自転車通行帯を表示し、自転車の走行ルートを示すと同時に、自動車からも自転車の走行ルートを認識しやすくする。 ・中央横断歩道部の歩道を広げることで、横断歩道部の自動車の無秩序な転回を防止するとともに、横断歩道の延長が短くなり歩行者通行の安全性が向上する。 ・町道幹線12号から駅前広場に流入する自動車は西側ロータリーの周回により、速度抑制になる。	・町道大磯48号や県道から流入する自動車・自転車と広場東側で転回する自動車の接触の危険性が高い。	・通過交通が流入しないため、広場内の自動車量が約1,000台/日減少する。 ・車道内を自転車が走らないため、自転車と自動車の錯綜が減少する。 ・駅前広場に流入する自動車は東西のロータリーの周回により、速度抑制になる。 ・自転車は降りて広場を通過するため、自転車の危険が減る。
大磯らしさ	-	-	・約1,000台/日の通過交通が流入せず自動車量が減るため、落ち着いた雰囲気を出し創出できる。
憩いとにぎわい	・駅舎前滞留スペースをやや広く確保し、憩いとにぎわいの場を創出。		・駅舎前に滞留スペースを広く確保し、憩いとにぎわいの場を創出。 ・広場の車両通過が路線バスのみとなるので、歩行者の回遊性が向上する。 ・広場は、祭りのイベントや観光案内拠点等、非日常時の多目的利用が考えられる。
利便性	・既存の施設配置を踏襲しているため混乱が生じにくい。	・広場の東側にタクシー・一般車の転回場を設けるため、タクシー・一般車の利便性が向上。 ・広場の駅舎反対側のバス停を駅舎側に移設するため、バス利用者の利便性が向上。	・中央の横断歩道が無くなるため、自動車の流れがスムーズになる。 ・自転車に乗車したまま広場を通過できない。 ・自動車が広場を通過できない。
総括	・安全面の確保、憩いとにぎわいの創出がやや改善される。 ・現状の施設配置に近い案であるため、整備による影響や混乱が少なく受け入れられやすい。	・利便性が改善されるが、安全面の理由から実現性が低い。	・安全面の確保、大磯らしさや憩いとにぎわい創出が大きく改善される。 ・広場内の自動車通過や、自転車に乗車したままの通過ができなくなることから、利便性が低下する可能性があるため、その影響を十分検証する必要がある。

検討結果

B案は安全面で劣るため採用することができない。

現況を踏襲したA案は、実現性が高い。

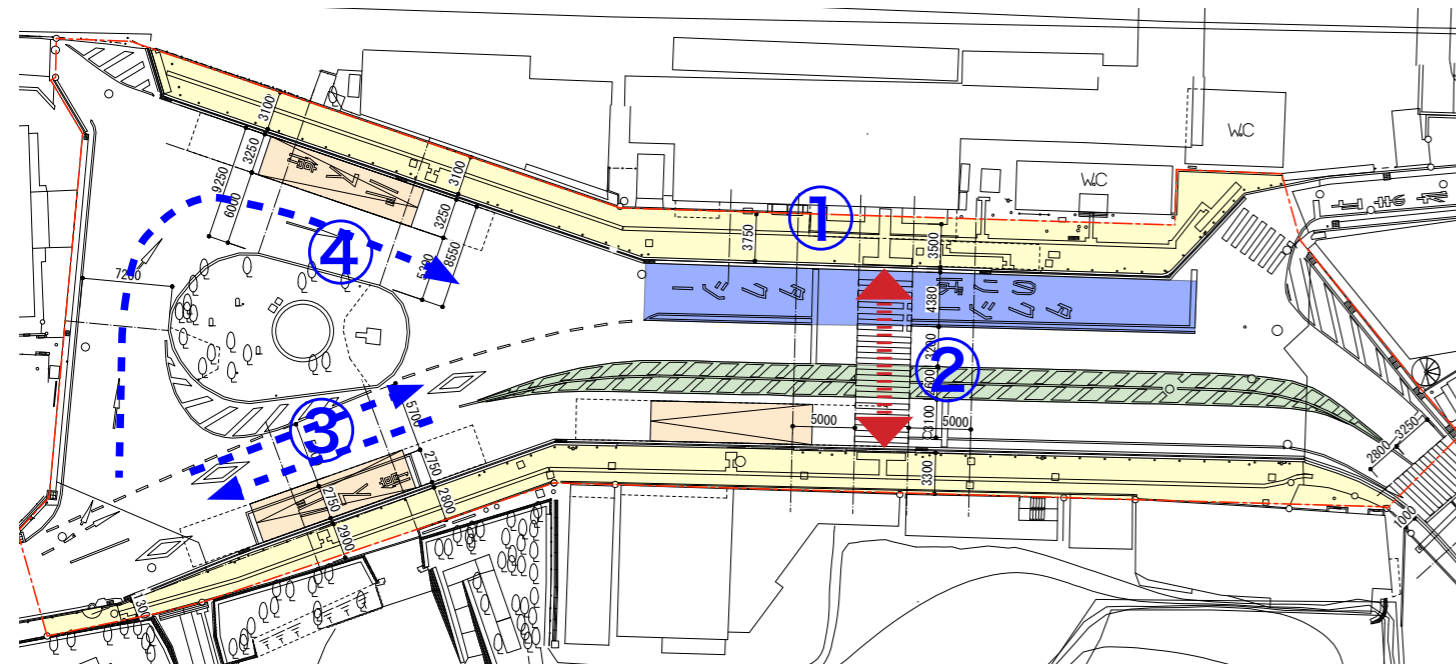
C案は安全面の確保、大磯らしさ、憩いとにぎわいの創出に優れており、長期的視点でより良い駅前広場となる大きな可能性がある。しかし、迂回交通の発生等の十分な検証が必要となる。

よって、本計画ではA案、C案共に検討を進めて行く。

現況からの主な改善点まとめ

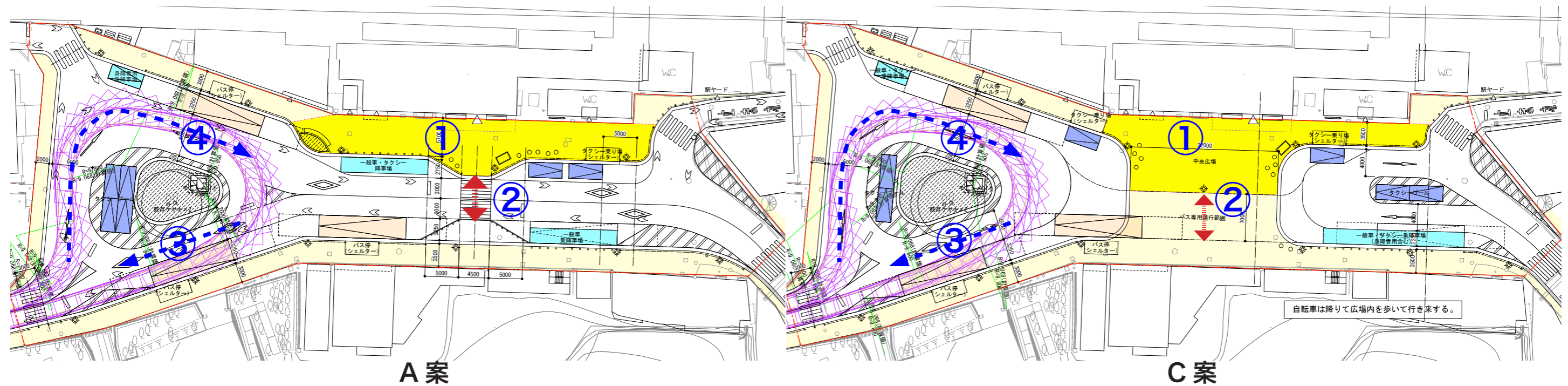
考え方

- 1) 駅前広場の整備に当たり用地が狭いこと、狭いうえに形状が不整形であることから望まれる機能全てを十分に満たすことはできない。狭い用地の中で工夫しながら、配置を検討した。
- 2) 現況の駅前広場には、一般車の送迎のための乗降場所が設けられていない。タクシー待機所を移動し、ゼブラゾーンをなくすことで、一般車の乗降場所や歩行者の滞留空間を新たに設ける。
- 3) 現状、駅前広場の中は駐車禁止（停車は可）規制がかかっている。また、十分な面積が確保できないため、駅前広場の中に駐車スペース（路外駐車場）を設けることはできない。

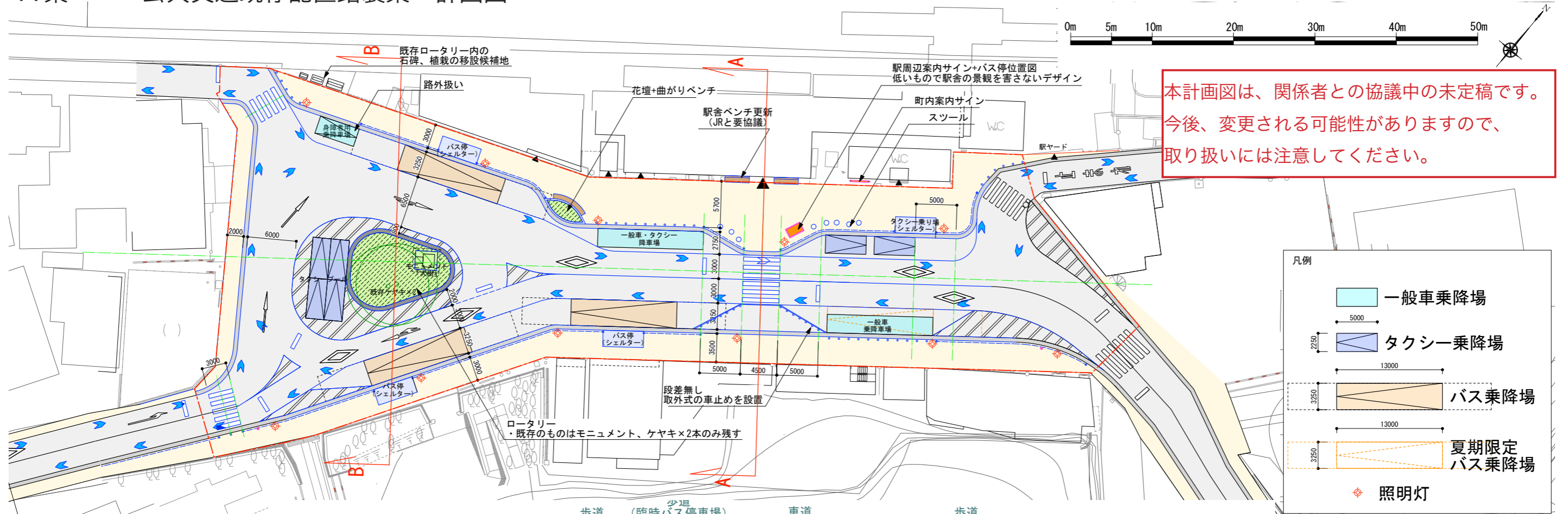


主な改善点对応表

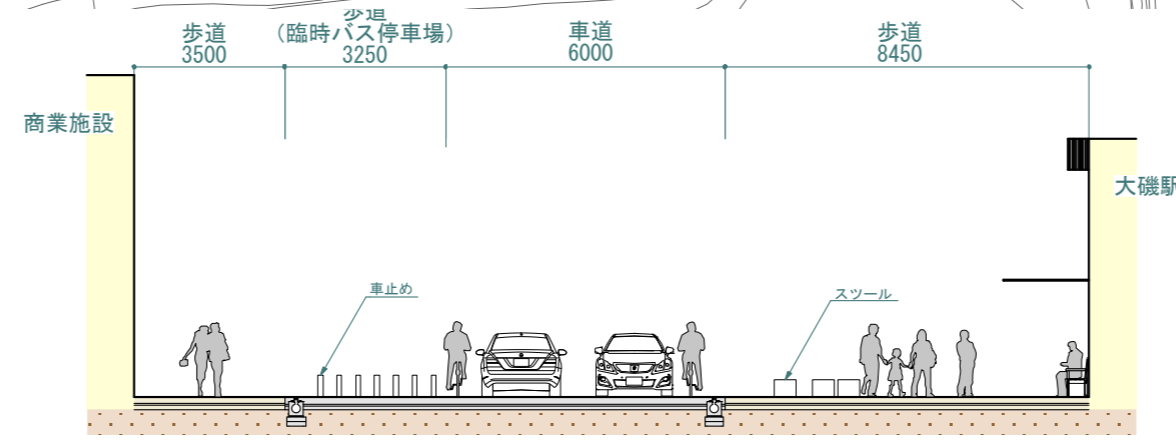
項目	記号	現況	計画案
駅舎正面の空間利用	①	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎正面歩道に来訪者が多く滞留し、駅への出入りや歩道の通行に支障がみられる。 ・駅利用者からアクセスのよい駅舎正面をタクシー待機所(2列)が広く面積を占めている。 ・車道中央に幅約2.5mのゼブラゾーンがあり、空間を有効に活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅舎正面の歩道を広げ滞留空間を設けることで、歩行者の円滑な通行空間を確保する。 ・タクシー待機所を移動し、ゼブラゾーンをなくすことで一般車の乗降場所と歩道空間を創出する。
横断歩行者の安全確保	②	<ul style="list-style-type: none"> ・横断歩道が長く、歩行者が長い時間危険にさらされている。また、歩行者の横断を待つ車両の停車時間が長く自動車が円滑に流動できていない。 ・横断歩道の前後5mは駐停車禁止だが、実際は駐停車車両が多くみられる。 ・横断歩行者が車両に隠れ、通過車両からの認識が悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・A案: 横断部分の車道を絞ることで横断歩道前後の駐停車を防止する。また、横断歩道の距離を短くする。 ・C案: 中央広場は、バスのみの通行となるため、歩行者は安全に通行ができる。
ロータリー南側の車両動線	③	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停と車両動線が重なっており、バスを避けた西向きの車両と東向きの車両が正面衝突する危険がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停と車両動線の重なりを解消するため、東向きの車両はロータリーの北側を通行する。 ・東向きの車は、必ずロータリーを周回するため、広場内での車両の速度を抑制できる。
ロータリーのバス転回・バス停配置	④	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの転回には狭く余裕がない。 ・バスが停車し、ロータリー島周りに一般車が停車しているとロータリーの通り抜けを妨げている状況がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広場は狭く限られた空間のためバスが転回できるのはロータリーのみである。バス停配置は、現況を踏襲する。 ・ロータリーの緑地部分を縮小し、ロータリー島周りの幅員を確保する。



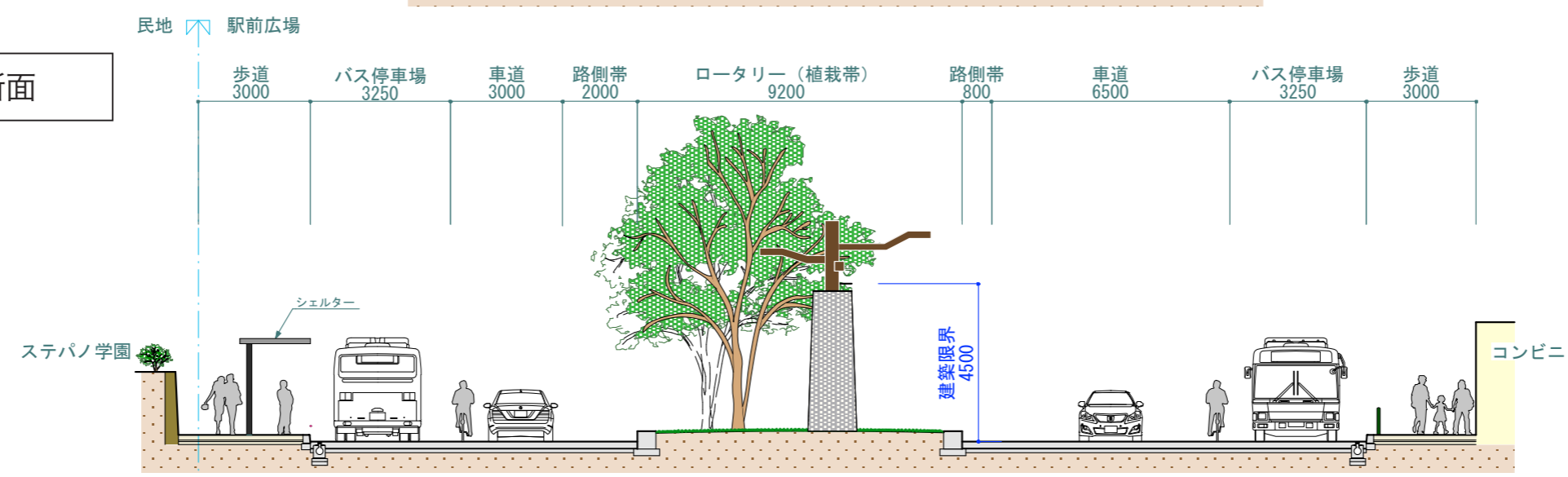
2-2. 計画図 A案：公共交通既存配置踏襲案 計画図



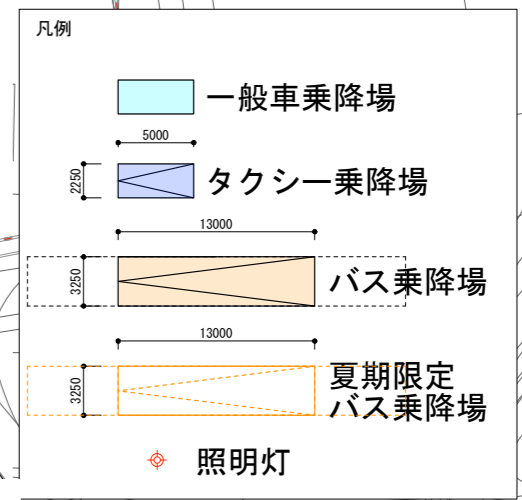
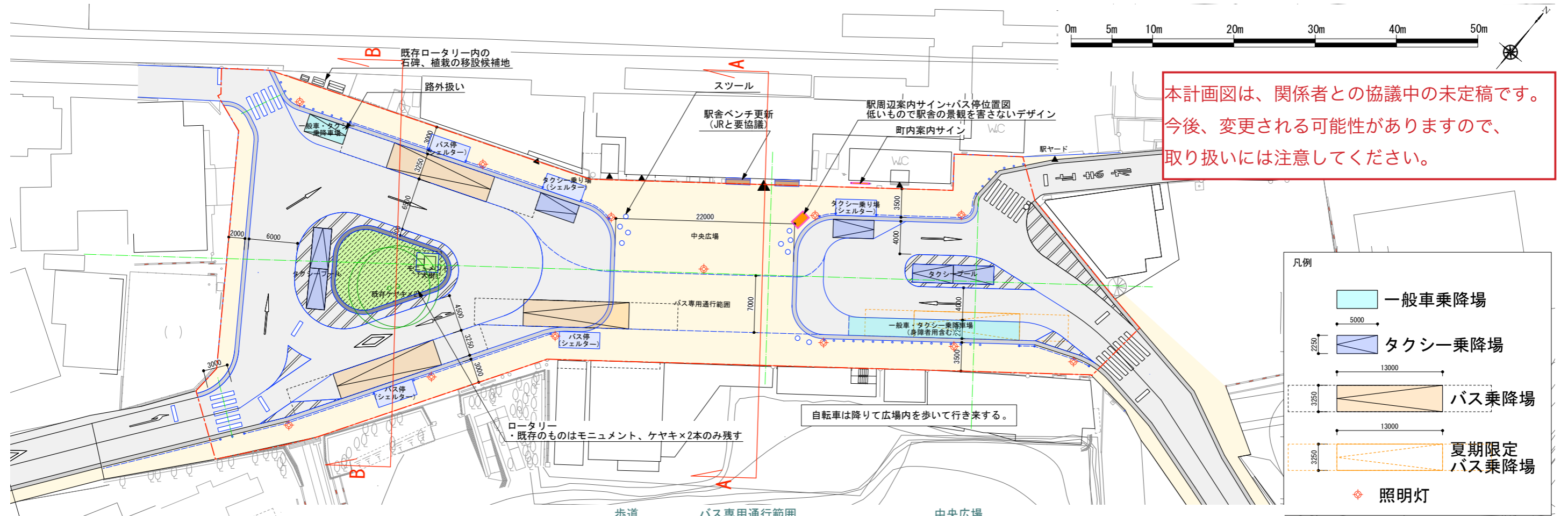
A 断面



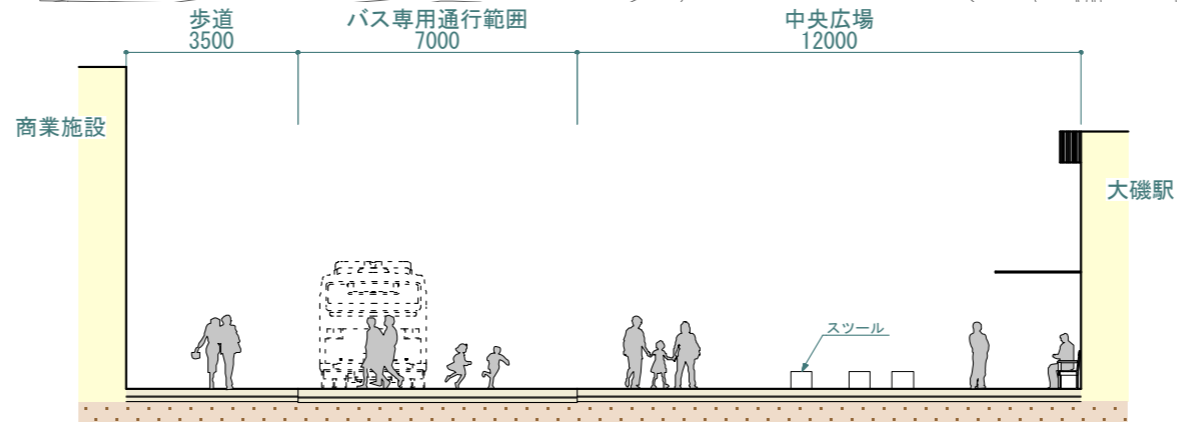
B 断面



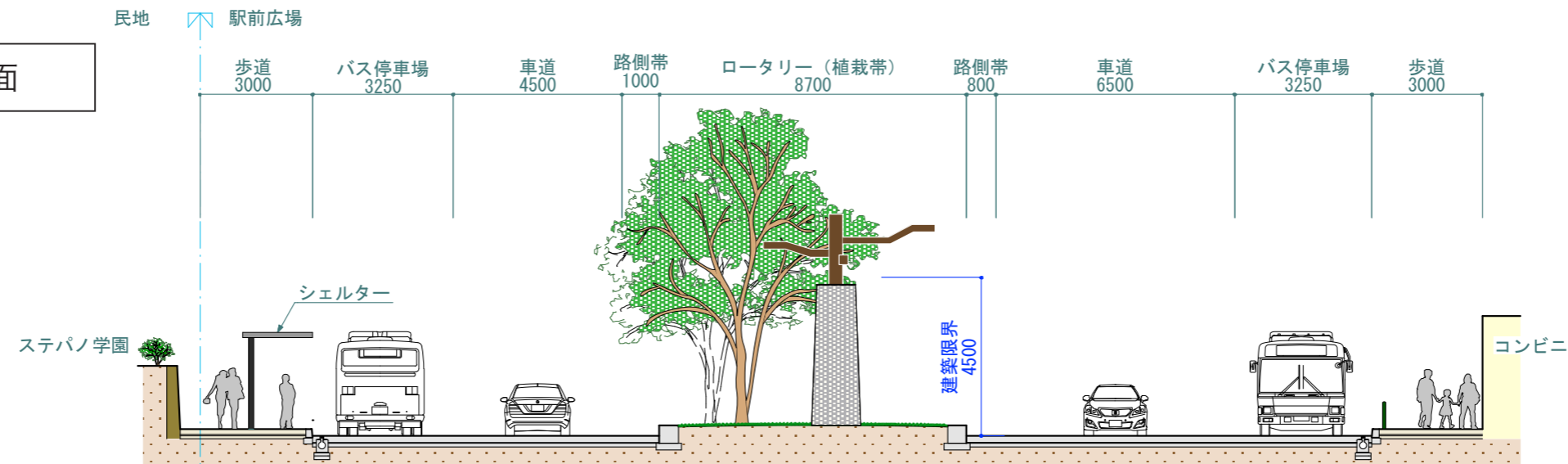
C案：中央広場案 計画図



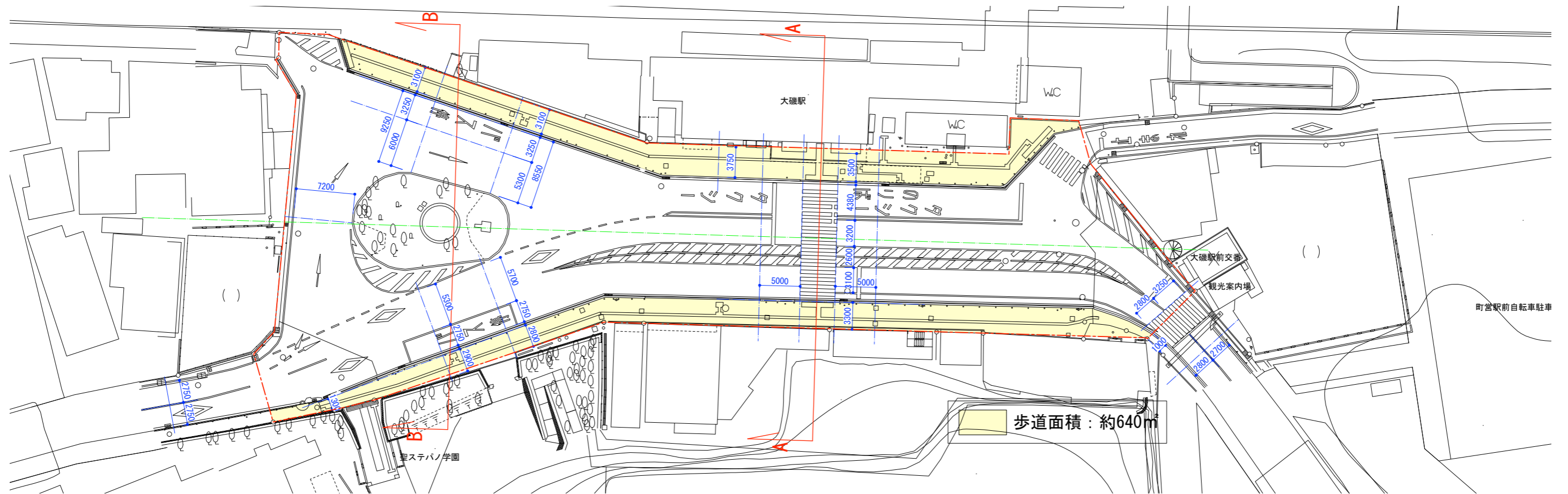
A 断面



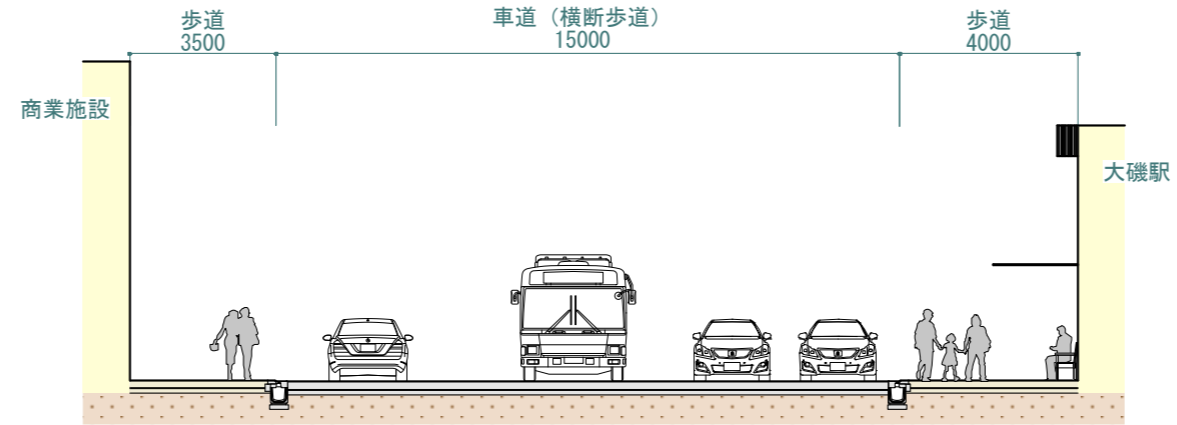
B 断面



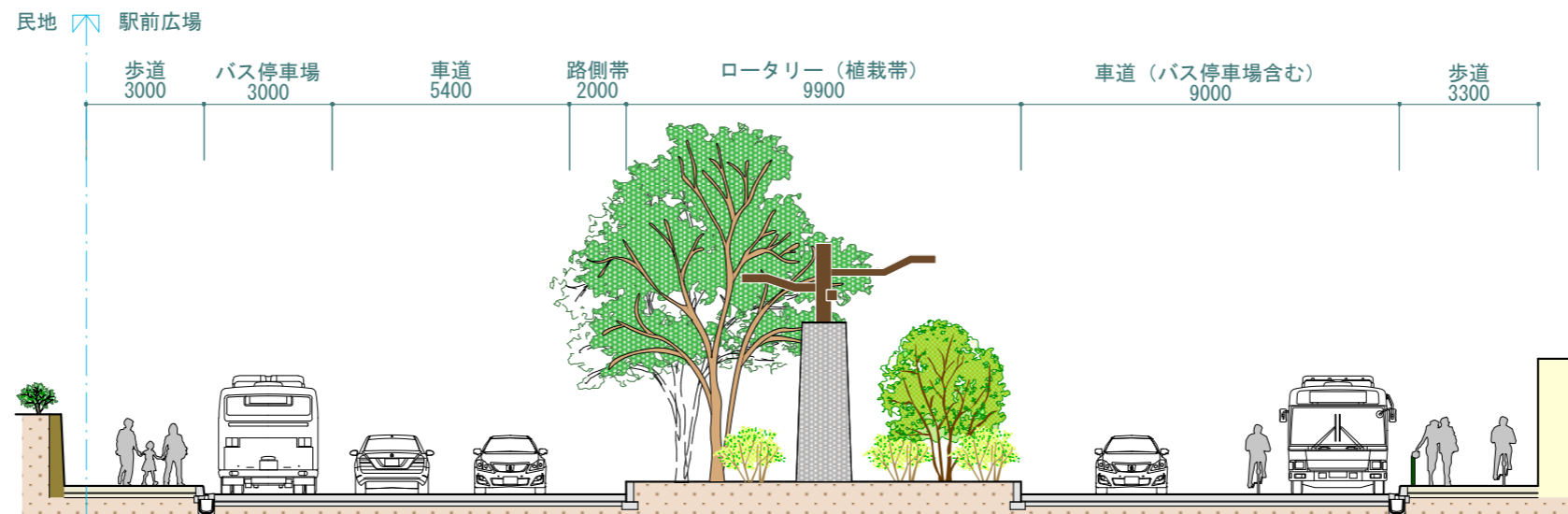
現況図



A 断面



B 断面



2-3. ロータリーの整備計画

整備の考え

- ・駅舎正面は、人の滞留により歩行空間を阻害している。現在、広く確保されているタクシープールは別の場所に移動し、一般車やタクシーの乗降場および歩行空間を整備する。
- ・歩道沿いは、バスや一般車、タクシーの乗降場を優先して整備するため、タクシープールは、ロータリーの中へ移動を検討する。なお、バスや一般車の乗降場を、ロータリーの中に設置することは、利用者が道路を横断し通行の障害となる。また、バスの乗降場をロータリーに設置することはバスの転回が不可能であり、設置できない。

→空間の有効利用のため、ロータリーを縮小してタクシープールを設ける。

景観整備

- ・広場中心（東側）からの景観を重視し、西側にタクシープールを設ける。
- ・モニュメント「大樹」とケヤキ×2本は広場の景観に大きな役割を果たしているため存置とする。
- ・ケヤキ×2本以外の植栽は、基本撤去とする。一部、記念植樹等についてはロータリー以外に移植する。
- ・3つの石碑（湘南発祥の碑、避暑地記念碑、鳴立沢碑）は目に付く場所に移設する。

（植栽、石碑の移設候補地は、コンビニ西側三角用地や旧駐輪場跡地等（C案では、中央広場も候補）

安全対策

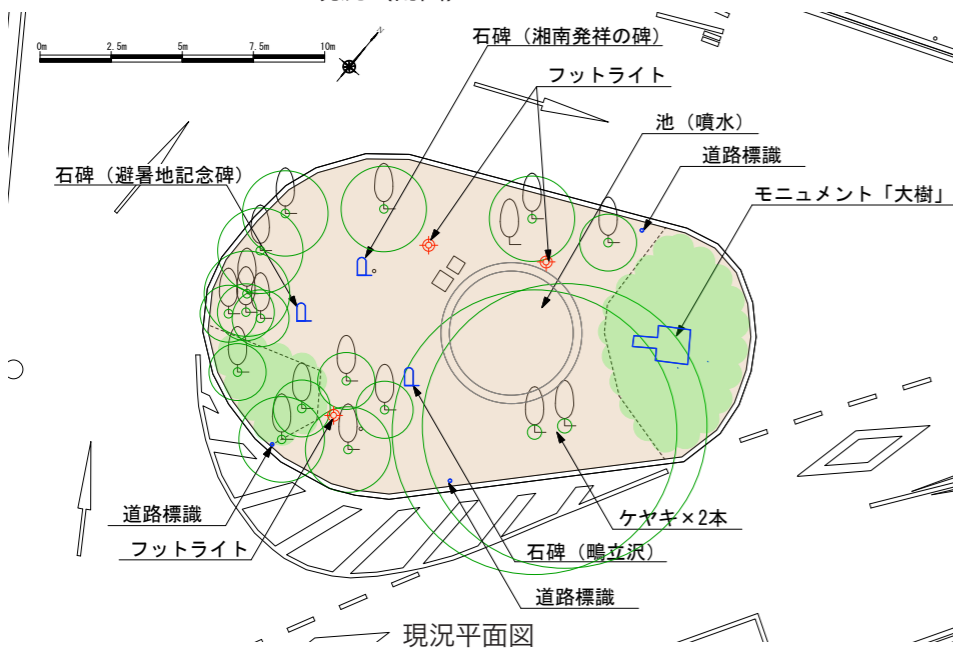
- ・新規植栽は、背丈の低い地被植栽のみとしてすっきりさせ、視距を確保し見通しの良い安全なロータリーとする。また、オープンスペースにはイベント等で期間限定の花壇等で装飾が可能となる。



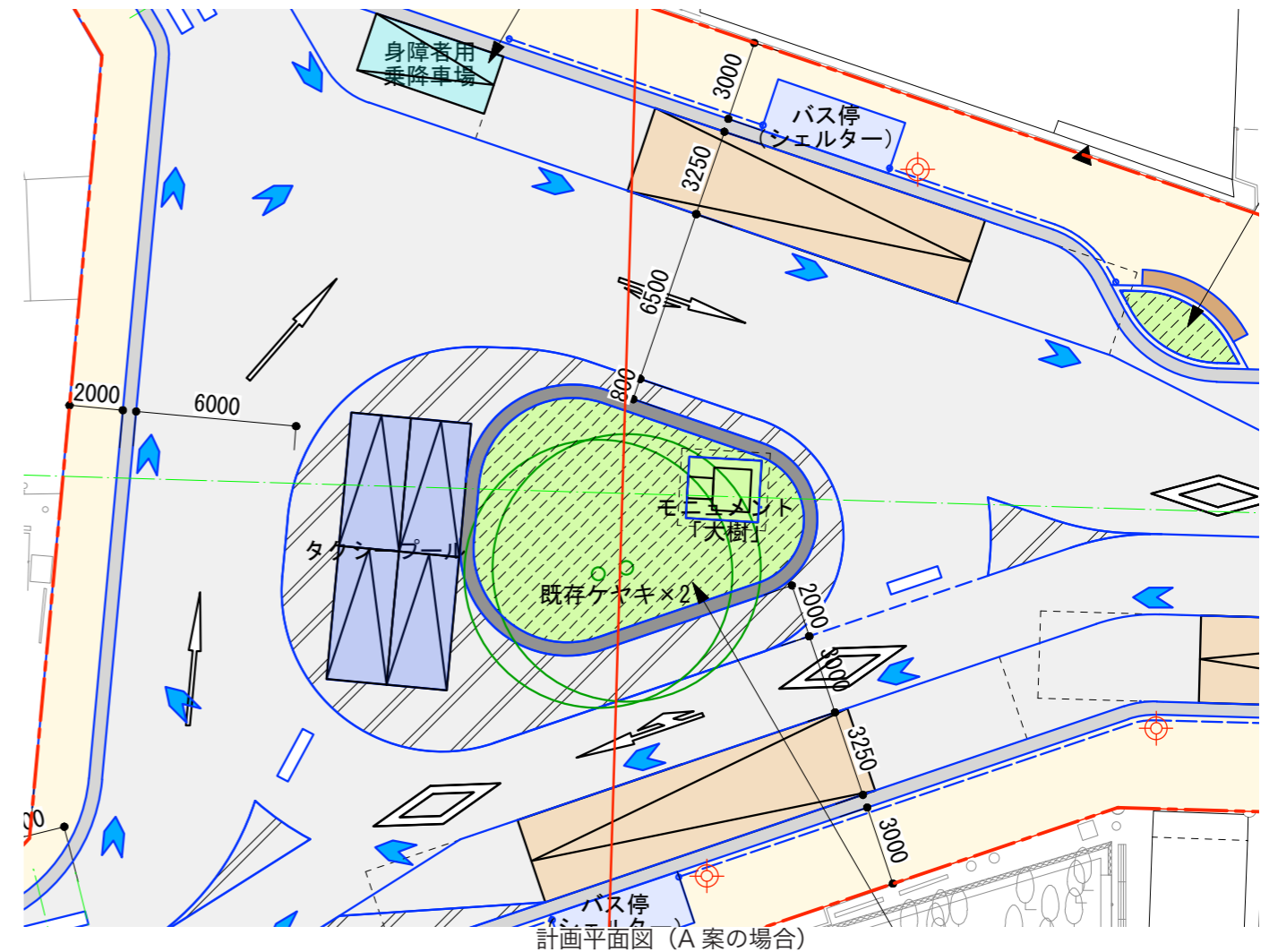
現況（南面）



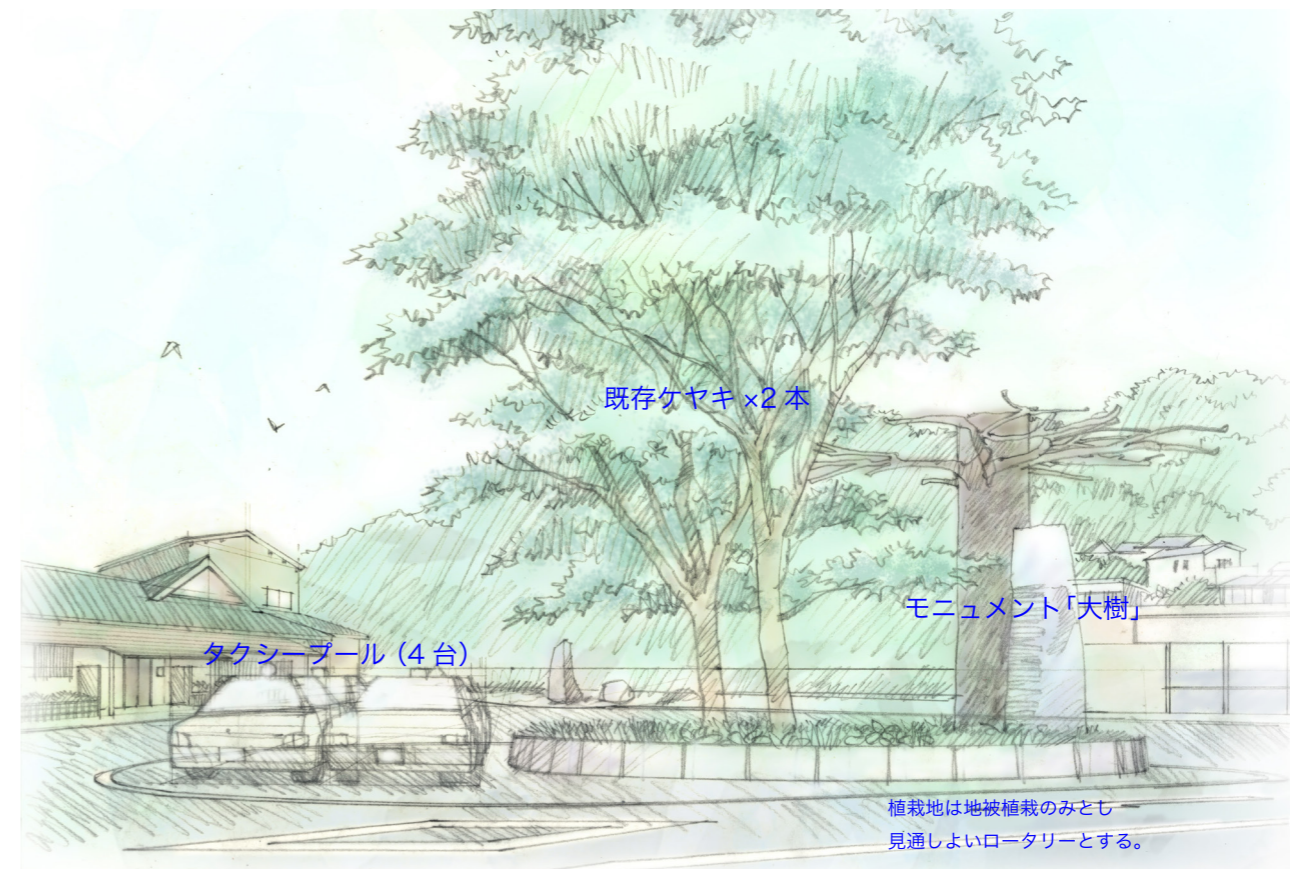
現況（北面）



石碑
 \避暑地記念碑
 ↑湘南発祥の碑
 ←鳴立沢



計画平面図（A案の場合）

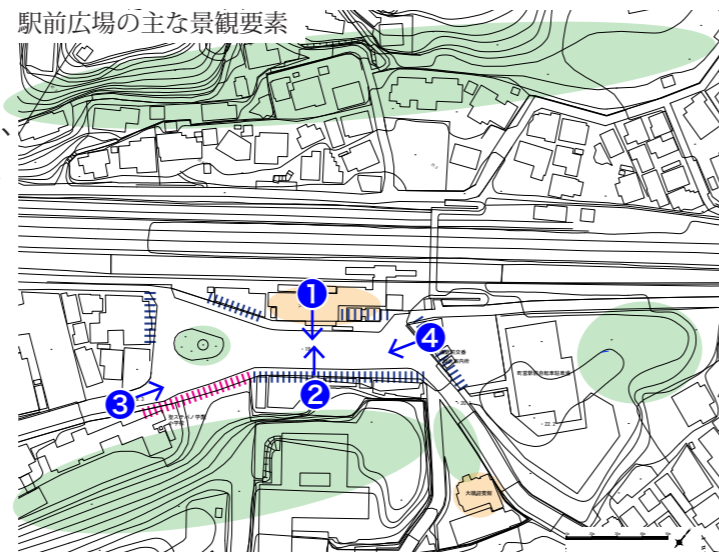


南からの景観イメージ（A案の場合）

3. 景観・デザイン計画

3-1. 現況の景観整理

大磯駅前広場は、南北の丘陵の緑の存在感と、駅舎の歴史的な建築物などにより、別荘保養地のイメージを残している。



写真① 建物ファサードを阻害する電柱と電線 駅舎を出た正面の店舗や丘陵の緑 ロータリーのケヤキの大木



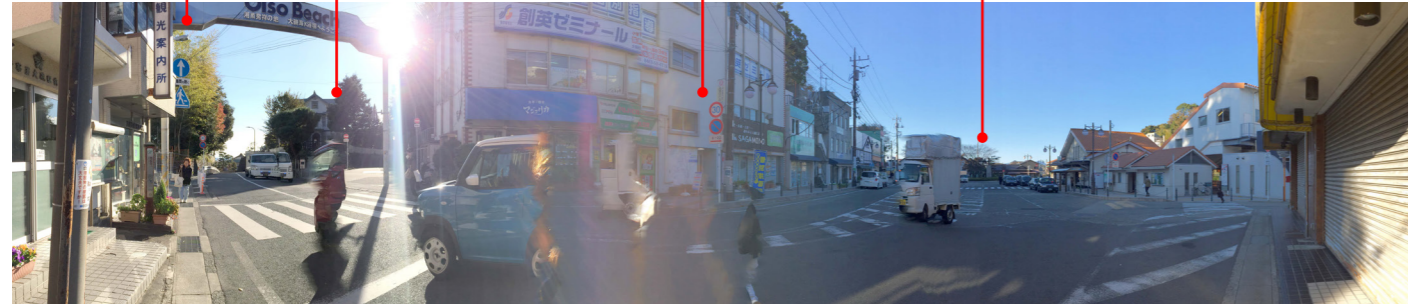
写真② 丘陵の緑 オレンジ色の屋根が特徴的な駅舎 趣のある照明灯や柵



写真③ 北側丘陵の緑 ロータリーの緑 東側緑地の緑 石積み、照明灯や柵などセットとなり趣がある 丘陵の緑



写真④ 海水浴場へのゲート 大磯駅前洋館と緑地 駅前広場を挟んで対照的な建物群 ロータリーのケヤキ



緑

<特徴>

・大磯駅は南北の丘陵の緑を背景として、緑豊かな自然的景観が特徴である。

<改善点>

・ロータリーの島に植栽されている樹木が大きくなり、視線を妨げている。車や人の通行状況やバス停留所の位置など、安全上の見通しの確保も必要である。



施設

<特徴>

町の歴史を感じさせる施設

- ・駅舎に合わせたクラシックな印象の照明灯や柵
- ・海水浴場案内ゲート
- ・町政 100 周年記念モニュメント「大樹」

<改善点>

・照明灯や柵、ゲートは道路形状の変更による位置変更に伴い更新する。
・南側歩道の電柱は景観を阻害しているとともに歩道の有効幅員を狭めているため、地中化の協議を進める。



建物

<特徴>

・関東の駅 100 選の 1 つである駅舎、歴史的建築物登録される大磯駅前洋館など、駅前に歴史的資源がある。

<改善点>

・商店など建物ファサードや看板などに統一感を持たせて、駅前広場としての一体感の形成が望まれる。



3-2. 景観ルール方針

3-2-1. 先行計画

大磯町景観計画（平成21年3月）

〈良好な景観形成の基本目標（将来像）〉

町民が愛着と誇りを基に自ら創りだす、豊かな自然に歴史と文化が薫る美しい景観のまち 大磯

〈良好な景観の形成のイメージ〉

宅地内の身近な緑と街並みの背景に見える丘陵や海、空といった豊かな自然景観と調和するのが大磯らしい街並み景観です。そのため、建築物や工作物の形態意匠や色彩の突出を抑えることが必要です。

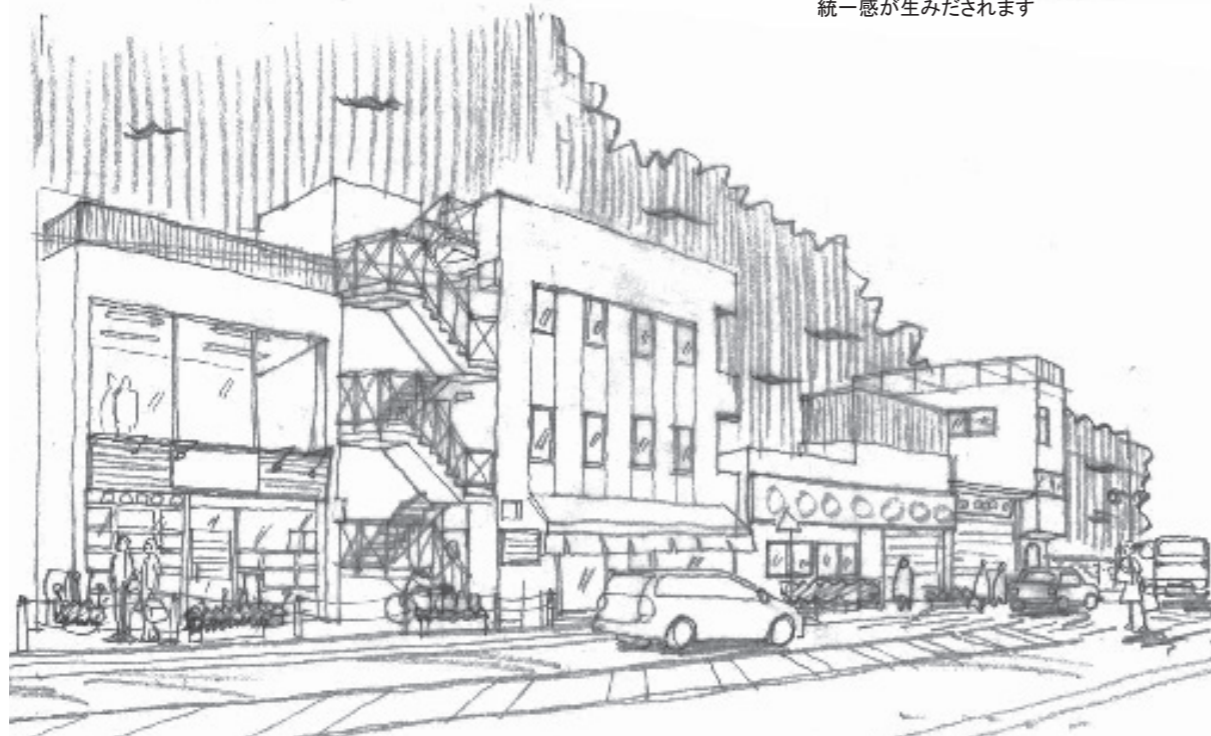
④ 大磯駅周辺南 景観形成重点地区の景観形成方針

町の玄関口として、風格のある町並み景観を保全し、
「穏やかな自然」と「都市の賑わい」が調和した
緑豊かな景観の創出を行います



現況

■ 町並みと背景の斜面緑地の緑が一体となる景観をより際立たせるため、建築物の大きさに対してアンバランスな大きさを持つ2階以上の窓面広告等を整理します。工作物等についても配置や形態などに配慮することによって、大磯の玄関口として相応しい、すっきりとした統一感が生みだされます



景観形成のイメージ

3-2-2. 景観ルール方針

現況の景観整理と先行計画を踏まえ、大磯駅前広場の景観整備におけるルールをまとめる。

**丘陵の緑に包まれた立地を生かし、
駅舎や大磯駅前洋館など歴史の趣が引き立つ、
風格のある駅前広場の景観づくりを目指す。**

1. 駅舎を中心とした落ち着いた雰囲気を受け継ぐ。

2. 遠景、近景の緑を生かした景観づくり

3. 新規で追加する施設（シェルター、サイン等）は、周辺景観に十分配慮する。

緑

- ・ 丘陵の緑の遠景、ロータリー等の緑の近景を効果的に活かす。
- ・ 南北から覆う緑は、大磯の閑静なイメージを伝えるものであるため、保全を検討し、周辺景観の良好な維持を図る。
- ・ ロータリーの島のケヤキは、大磯駅前広場のシンボルツリーとして残し保全する。
- ・ 各商店や各建物でおもてなしを表現するプランター等を設置し、緑化及び維持管理に協力いただく。（※民間事業者、民間所有者に協力いただけるか、協議が必要。）

施設

- ・ 照明灯、柵等の施設は、広場形状が変わるため、移設が必要となる。施設は、現況の雰囲気を踏襲したデザインとして更新する整備方針とする。具体的なデザインは、実施設計等で検討する。
- ・ ロータリー内にあるモニュメント「大樹」は、大磯の顔として存置する。
- ・ 駅舎、聖ステパノ学園入口の石積み等の歴史を感じる景観を阻害しないよう施設配置及びデザインに配慮する。

建物

- ・ 駅舎と対面をなす民間の店舗についても、駅舎や駅前広場と連携した建物群として協力いただき、町の玄関口としてふさわしい景観形成が望まれる。
- ・ 街並み修景については、平成30年度に大磯町の景観を議論する「大磯町景観応援団」において、修景ガイドラインなどについて具体的に検討を行う。
- ・ 民間事業者、民間所有者に協力いただけるか、協議が必要となる。